

青梅夜具地

— 過去・現在・未来を紡ぐ —



2023年 8月7日（月）～8月31日（木）

開館時間 | 10:30 ～ 17:00 入館料 | 無料

休館日 | 日曜日、8月11日（金）～8月19日（土）

会場 実践女子大学 渋谷キャンパス 創立120周年記念館1階 実践女子大学香雪記念資料館

主催 実践女子大学文学部美学美術史学科「青梅夜具地展示プロジェクト」

協力 実践女子大学香雪記念資料館

後援 渋谷区教育委員会、ぎやらりーはこ哉、青梅夜具地夕日色の会

関連事業 ワークショップ「夜具地で遊ぶ」（各回ともA・Bあり 定員 各30名）※先着順

A：30センチの布で遊ぶノート/貼り絵/コースター

B：ハギレで彩るリース/フレーム

夏休みの自由研究におすすめ

8月22日（火）11:00・14:00（2回開催） 会場 | 実践女子大学 渋谷キャンパス4階 401・402教室
※要事前予約（8/20迄）QRコードからお申し込みください。





青梅市の伝統工芸 青梅夜具地の意匠

東京の西に位置する青梅市は、織物で有名でした。江戸時代には、「青梅縞」が人気となり、粋な江戸っ子に愛されました。明治時代になると、新たな織物が誕生します。それが「青梅夜具地」です。夜具地とは、ふとんの布のことです。はじめは、「青梅縞」とおなじ縦の縞模様でした。やがて横の縞模様や、格子模様などに変化していきます。さらに技術の発展にともない、花、壺、鶴などが新しいデザインとして登場します。

昭和20年代に全盛期をおかえますが、生活スタイルや技術の変化により衰退し、平成11年頃に生産が終わり、青梅夜具地は役目を終えました。

この展覧会では、青梅で紡がれてきた貴重な文化資源である青梅夜具地のデザインに注目し、魅力あふれる青梅夜具地を集めました。さらに、役目を終えた夜具地に価値をあたえ、新しい作品に生まれ変わらせる「アップサイクル」の作品も展示します。青梅夜具地を使ったワークショップ（8月22日）「夜具地で遊ぶ」は、夏休みの自由研究におすすめです。多摩西部で独自に発展した織物文化について学べる貴重な機会に、ぜひ多くの方々に足を運んでいただければと思います。



UPCYCLE

夜具地をさらに価値あるものへ

現在は織られていない青梅夜具地。

その貴重な布がはこ哉によって、バッグやポーチ、ノートなどに生まれ変わります。

さらにそれらの制作により出たハギレも

アクセサリやリースへと姿を変えていきます。

昔の布、から、カワイイと言われるモノへ。

出来るだけ廃棄を出さない。

はこ哉の取り組みです。



ぎゃらりーはこ哉
東京都青梅市住江町7



—展示作品・資料の提供—
青梅織物工業協同組合
青梅夜具地夕日色の会
ぎゃらりーはこ哉

駐車場がございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

問い合わせ先 | 実践女子大学文学部美学美術史学科

「青梅夜具地展示プロジェクト」

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49

E-mail kushida-kiyomi@jissen.ac.jp

実践女子大学 香雪記念資料館

(実践女子大学渋谷キャンパス内)
実践女子大学
実践女子大学短期大学部
渋谷キャンパス

アクセス

○JR/東京メトロ/東急/京王

「渋谷駅」東口から徒歩約10分

○東京メトロ「表参道駅」B1出口から徒歩約12分

